

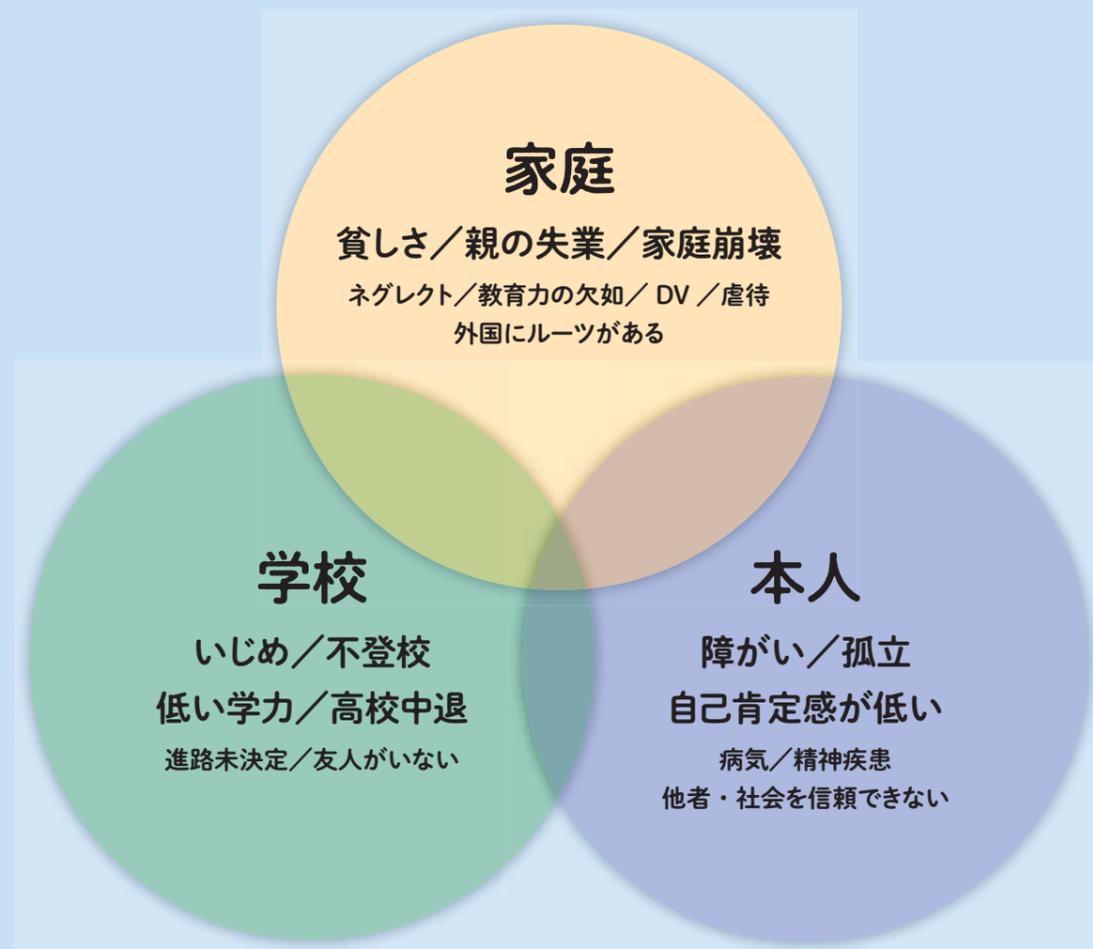


一人の子どもや
若者も
取り残さない
社会を

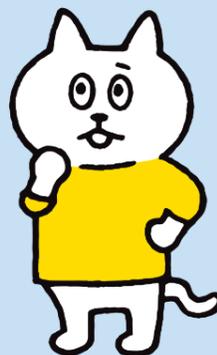
NPO法人
さいたまユースサポートネット

一人の子どもや若者も取り残さない社会を

孤立した子ども・若者たちが抱える「生きづらさ」は、社会で向き合うべき課題です。
困難の背景には、複合的で重層的なリスクがあります。



見た目にはわからない
いろいろな「生きづらさ」を
抱えている子どもたちが
いるんだね



「コモンズ」を創出し、全国のモデルに

— 地域の共有財産をさらに豊かに —

「地域に住むすべての人々が、豊かな経済生活を営み、優れた文化を展開し、人間的に魅力ある社会を持続的、安定的に維持することを可能とする社会的装置であり、人間的尊厳を守り、魂の自立を支え、市民の基本的権利を維持する不可欠の役割を果たす」

戦後日本を代表する経済学者であり思想家でもある、宇沢弘文(1928-2014)は、これを「社会的共通資本」と呼びました。宇沢は温暖化などの環境問題、交通やエネルギーなどのインフラストラクチャー、教育・福祉、都市・農村などの制度を「社会的共通資本」としましたが、さらに持続的な発展を続けるためにコモンズの必要性を語っています。

私は高校の教師時代から、高校中退問題の調査研究をしてきました。調査の中で、私が出会った若者たちの多くは、ひっそりと社会の片隅で生活していました。2011年、そんな若者たちの学び直しや居場所を作ろうと始めたのが「たまり場」でした。最初にやってきたのはホームレス経験のある20代の通信制高校生、二人目は児童養護施設で暮らした女性でした。格差の中で生きづらさを抱える若者たちには、学び直しや仲間づくり、支え合うコミュニティが必要です。以来12年間で1万人以上の子どもや若者たちと、居場所や学習、就労の場で関わってきました。

「公助」の縮小が懸念される現在の日本社会で、地域の支え合いをコーディネートするNPOや地域に根ざす企業などとの協働による「共助」が必要になってきています。若者の居場所づくりなどを持続的で包括的な活動にするためには、コミュニティの共有財、コモンズの形成も必要です。私たちの目標は地域のネットワークづくり、ソーシャルキャピタルの蓄積です。私たちの活動を先駆的なモデルとして全国に広げたい、そう考えています。



代表 青砥 恭

元埼玉県立高校教諭。その後、関東学院大学、埼玉大学、明治大学で教える。2016年から「全国子どもの貧困・教育支援団体協議会」代表理事。朝日新聞(埼玉県版)の「まなぶ」「はぐくむ」シリーズで、子ども・若者の貧困、教育に関するコラムを10年にわたって連載。著書(編書・共書)に『ドキュメント高校中退』(ちくま新書)、『若者の貧困・居場所・セカンドチャンス』(太郎次郎社エディタス)など多数。

さいたまユースサポートネットのあゆみ

目の前の子ども・若者のSOSに寄り添うための
小さな居場所からはじまった

私たちさいたまユースサポートネットは、2011年7月から、さいたま市を中心に“地域”に根ざした活動を続けてきました。虐待、ヤングケアラー、発達・知的等の障がい、いじめ、不登校、高校中退……。生きづらさを抱えた子どもや若者が、孤立と貧困の中で暮らしています。そのような子どもや若者の現実に寄り添いながら、「居場所支援」、「学習支援」、そして「就労支援」へと、必要に応じて活動の範囲は広がっていきました。

さいたまユースが取り組むSDGs

私たちは持続可能な開発目標（SDGs）を支援しています。SDGsは、世界を持続可能にするために、国連の全加盟国が合意した17の目標です。さいたまユースでは9つの目標に取り組んでいます。



2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023
------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------

学習支援

経済的・環境的に学習が十分にできない困窮層や、外国ルーツの子ども・若者の学習をサポートします。

居場所支援

居場所や仲間づくりのための場をつくり、子ども・若者とその家族を支えます。

就労支援

不登校や引きこもりなどの若者の自立への一歩に寄り添います。仲間づくりやさまざまな人との関わりからサポートします。

2012年度～
生活困窮層の子どもへの学習支援

生活保護受給世帯や児童扶養手当全額受給世帯、自立相談支援機関を利用している世帯の子どもを対象としています。

・さいたま市学習支援教室(中学生)

2011年7月～
たまり場活動スタート!

「何をしてもいいし、何もなくてもいい」「誰もがメンバー」をスローガンに、「たまりん(交流)」「まなびん(学習)」の二部屋で開催しています。

2013年度～
居場所のない若者たちの居場所づくり

多様な生きづらさを抱え、社会から孤立しがちな若者たちが、安心して過ごせる居場所です。社会的な活動体験を重ね、面談なども行っています。

・さいたま市若者自立支援ルーム (桜木・南浦和)

2013年度～2020年度
若者たちの就労支援

「自信が持てず一歩を踏み出せない」「コミュニケーションが苦手」「人間関係のつまずきで退職後、ブランクが長い」など、働く悩みを抱える49歳までの方の就労を支援しています。

・地域若者サポートステーション(厚生労働省・埼玉労働局)

2018年度
地域の教育資源を活用した教育格差解消プラン (文部科学省)

高校中退者への進路選択、学び直し支援の場、まなび場「いっば」を実施。前向きな気持ちで臨めるよう、利用者と一緒に軽食を準備し、食事も共にしました。

2017年度～2020年度
地域の多様な人材との連携による高校生自立支援事業(埼玉県)

2020年度～
さいたま市学習支援教室(小学生)
2020年度～2022年度
・川越市学習支援教室(小中高生)

2020年度～
上尾市子ども若者自立支援事業

2021年6月～
若者就労支援

・「はたチカ」応援プログラム

2018年度～
小学生のサッカー教室
スポーツ遊び

小学生に無料でサッカーやスポーツ遊びの機会、食事やおやつを提供しています。

「働きたくても働けない」若者をサポート。「働く」準備を一緒に進めます。

6畳一間のアパートから始まった

「たまり場」は、孤立の中で暮らす貧困層の若者たちの学びなおしを目指し、6畳一間のアパートから始まりました。はじめにやってきたのは20代の通信制高校生。「勉強、本当にただで教えてくれるんですか」とやってきました。中学からほとんど学校とは縁がなく、10代後半からホームレス生活をしていたこともありました。

それから今まで、「たまり場」は無料で運営を続けてきました。これまでに、多様な背景を持つ、年間のべ2000人ほどの若者たちがやってきました。その多くは、私たちの団体の就労支援などを受けながら、自立し、巣立っていきました。

今も「たまり場」には毎回25～35名が参加。学び直しをしながら交流し、仲間をつくる大切な場所になっています。

2021年度～
堀崎プロジェクト
始動!

2021年度～
子ども第三の居場所

・あそぼっくすみぬま
・あそぼっくすほりさき

地域づくり

全ての活動のベースを整えるには地域づくりが欠かせません。堀崎に拠点を置いて、モデルとなる地域づくりを始めています。

詳しくは8ページへ!



コモンズ =居心地のいい 地域を目指して

地域との協働で

一人の子どもや若者も

取り残さない社会を実現したい

子どもや若者の不安や孤独感を解消するためには、「地域の中に、自分を認め、受け止めてくれる居場所がある」という安心感が何よりも必要です。安心して相談や仲間づくりができる「地域の居場所」であり続けること、それが私たちの使命です。地域の人々が参加しながらつくる「コモンズ」を実現させるため、子ども・若者を中心に全ての世代が居心地のよい地域を目指して活動を続けています。実現のためには地域のみならず、企業のみならずの力が必要です。

2009年 日本テレビ NNNドキュメント「貧困社会ニッポンの教育(2) 高校中退」
モデル事業として、日本中へメディア発信!
2014年 NHK ETV特集「本当は学びたい」ほか、テレビ、新聞、雑誌など取材多数!

地域づくり

地域の方々との協働で、
子ども・若者を見守る
持続可能なセーフティネットを
つくります。

相談したら
楽になりました!

知らない友達も
一緒に遊ぶと
楽しいな

学年をこえて
スポーツ遊びが
できるよ

ゆっくり教えて
もらえば
よくわかるね

一人の時間も
大事にしたいな

みんな
地域を
つくろう!

居場所支援

安心できる居場所を通して
地域社会とのつながりを
実現します。

学習支援

子どもや若者たちの学びや
学び直しの場をつくれます。
家族や子どもの生活のサポートもします。

自分らしさを大切にしながら、
社会で「働く」ための
準備を進めます。

畑仕事は大変だけど、
みんなで作った
野菜、おいしいよ!

練習したので
落ち着いて
面接できました

就労支援

地域社会が協働するモデル
「堀崎プロジェクト」始動!

8ページから
紹介するよ!

堀崎 プロジェクトって なんだろう？

さいたまユースの新たなチャレンジ
地域の課題を包み込む
「commons」のモデル地域に

これまでのさいたまユースの活動を生かし、さらに前に進めるための新たなチャレンジが始まりました。2021年、さいたま市見沼区にて、「堀崎プロジェクト」を発足。地域の企業や学校、民生委員などと連携しながら、地域のネットワークを充実させて子どもや若者の問題の解決と支援の充実を目指します。子どもや若者に限らず、赤ちゃんからお年寄りまで、多世代の多様な人たちが自然に集まり、みんなでアイデアを持ち寄り、楽しみながら地域を作っていく場づくりを目指しています。

2021年1月
START!

さいたま市見沼区堀崎町に新拠点誕生！



堀崎町、堀崎公園の一角にある広々とした施設です。静かに過ごせる「ゆったりエリア」では、のんびりとお絵描きやアナログゲームで遊んだり、本を読んだりして過ごせます。雨の日も体を存分に動かして遊べる「わんぱくエリア」はちょっとした体育館のようなスペース。スタッフやボランティアのお兄さんお姉さんたちと思いきり楽しめます。

地域の人たちが集う
Commons Cafe（commonsカフェ）も併設！



公園からアクセスできるゆったりとしたカフェができました。ランチには甘口の「10種の野菜ジャムスイート&スパイスベジカレ」、台湾出身の店長が作る「台湾おふくろの味ルーロー飯」、「お子さまカレーセット」などをお楽しみいただけます。地域の交流イベントやカルチャースクール、カフェスペースの貸し出しもしています。



埼玉県深谷市の卵専門農場「田中農場」さんの高級卵「宝玉たまご」を使用した濃厚な手作りプリンも人気です。



子ども第三の居場所

あそぼっくすみぬま
あそぼっくすほりさき

あそぼっくすみぬま・あそぼっくすほりさきは、見沼区の小学校の子どもたちを対象とし、子どもたちが安心して過ごせる居場所を作っています。放課後の遊び、学び、生活を支え、自立する力を育てます。家庭と地域の方々との連携を大切に、子ども・家庭・地域の明るい未来に向け、スタッフ一同力を尽くしていきたいと考えています。



学校や家庭とは違う第三の居場所。「自分はいってもいいんだ」と自己肯定感を持てる場を目指しています。

堀崎プロジェクトを「commons」の全国モデルに！

地域の自治会、社会福祉協議会、民生委員（児童委員）など住民の自治組織、企業、NPOなど民間団体との協働で「堀崎プロジェクト」と名付けた活動をはじめました。日本ではまだほかに例を見ない取り組みです。生きづらさを抱えた子どもや若者、外国にルーツを持つ子どもや若者、さらに地域の全ての子どもたちに対して、学習・文化・芸術・スポーツ、旅行、仲間づくりなどのさまざまな体験の支援を行っています。地域の「支え合い」の担い手となるのは団体スタッフだけでなく、地域のみなさん。持続的な活動にするために、全ての活動をコミュニティの共有財「ローカル・commons」にしたいと考えています。

地域のみなで
いっしょに
つくっていきんだね！



堀崎プロジェクト



運営協議会



地区の自治会長、民生委員、社会福祉協議会、NPOなどさまざまな地域のメンバーに運営協議会に参加していただいています。さいたまユースの活動を報告し、いただいたご意見やご感想を活動に活かしています。

評価委員会



大学の研究者、支援者などに評価委員会に参加していただいています。地域ニーズの拾い方、教育機関や関係機関とのつながり、地域の企業とのコラボレーションの重要性など毎回とても貴重な意見をいただいています。

堀崎プロジェクトでは、どんなことをしているの？

いろいろな事情で体験の機会が少ない子ども・若者たちがいます。安心できる環境で、仲間たちと一緒にさまざまな体験ができる機会をつくっています。子どもや若者たちのアイデアで新しい活動が生まれ、地域の人たちから、「こんなイベントができますよ!」と声をかけていただき実現することも。活動はどんどん広がっています。



体験の場 ほりさきたまり場、子どもたちに「ほりたま」と呼ばれています!

演劇 演劇ワークショップで表現を楽しもう!



プロの劇団「青年劇場」の講師が、演劇初体験でも楽しく参加できるワークショップを月1回行っています。全身を使って感情表現したり、簡単な台本を読んだり。参加者から笑顔がこぼれます。

遠足 いろんなところにお出かけしたい!



電車などに乗って外出する機会が少ない若者たちと、社会科学見学や遠足に出かけています。鉄道博物館や東武動物公園、漫画博物館、盆栽美術館、川越街歩きなど、スタッフも一緒に楽しんでいます。

畑 みんなで野菜を育てています



広い畑をお借りして、季節に合わせていろんな野菜を育てています。いも類は育てやすいので夏はじゃがいも、秋はさつまいもなどがたくさんできます。農業体験で、育てる楽しみ&食べる楽しみを満喫しています。

音楽 作って演奏! 音を楽しむ!



音楽が好きな若者は、好きな楽器を練習してバンドを組んだり、沖縄音楽などを地域の人たちと体験したり。rapper晋平太さんのラップ講座では、小学生が自己紹介のラップを作ってみんなに披露しました。

そのほかにも…

アート教室やネイル講座、ストレス発散講座などの講座を開催しています。定期的で開催される体験教室のほかに、「すごろくトークしよう!」、「Switch 冬の陣〜マリオカート・スマブラ王決定戦〜」、クリスマス会など、季節ごとのイベントも人気です。

サッカー教室・スポーツ遊び

学年を超えた友達と思いきり体を動かそう!



校庭や体育館の手配をしているよ

怪我をしないようにみんなの安全を守っています



七里自治会 会長 大塚さん



救命救急士 須賀さん

見沼区の小学校の校庭や体育館で月2回開催。毎回20～30名の小学生が学年を超えて参加しています。中学生になっても遊びに来てくれる先輩も。サッカーを中心にバスケットボールやバドミントンなど、スポーツ遊びで体を動かしています。

お弁当もあるよ!

活動が終わるとお弁当やお菓子の配布も。その準備や片付けも子どもたちが積極的に参加しています。



絵本の読み聞かせ



5歳のお子さんがあるマリアさんから、「英語で読み聞かせができますよ」とメールをいただき実現。みんなのんびり読み聞かせを楽しんでいます。

体験の場

居場所

外国にルーツのある子どもたちと文化交流を楽しんでいます!

多文化クラブ (てんきりん共催)



さまざまな背景を持った子どもたちが、自分のルーツを活かして自分らしく力を伸ばし、日本社会で活躍できるように、仲間と一緒に楽しく学び合うクラブです。子どもたちのリクエストでお団子づくりをしたり、日本語を学んだりすることも。相談も気軽にできます。チベット映画を上映した後、みんなで感想をシェアする「世界の文化を知ろう!」というイベントも開催しました。

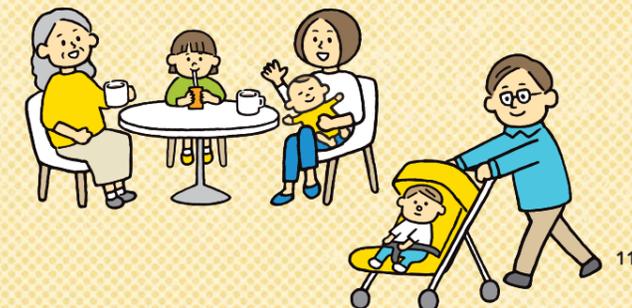


居場所

子育て中のお母さん、お父さんが「自分らしさ」を取り戻すきっかけに!

保護者のためのコモンズ親カフェ

「子育てに楽しみや喜びも感じるひまがない」「疲れてしまった」「大きくなっても悩みはつきない」「ほかの子と比べてしまう」「なんで? どうして?」「もやもやイライラする」——。そんな時、ちょっとコーヒープレイクしませんか? 子育て法を学ぶのではなく、自分を取り戻す時間を。月に4回ほど開催しています。



交流の場 もっと地域とつながりたい!

ほりさきマルシェ 地域の人たちでにぎわう縁日



定期的で開催している縁日形式のイベント。地域の人なら誰でも参加でき、400名以上が訪れることもあります。地元の農家さんによる野菜販売、ハーブ製品の販売、ハンドメイドグループのワークショップなど出店も盛りだくさん。屋内のステージでは、スペース貸し出しを利用している団体が太極拳やキッズダンスを披露しました。



大宮マジック研究会によるマジックショーでは、客席から驚きの声が上がります。



若者自立支援ルームの若者が作った切り絵作品の展示販売。緻密な絵柄をカッターで切り出しています。



ハンドメイドグループのHappy Time から7店の出店がありました。アクセサリー作り体験は大人にも子どもにも好評!

コミュニティカフェ カフェスペースでイベント開催



Commons Cafe(コモンズカフェ)では、地域の団体などによるイベント開催も増えています。写真は、みぬまハウス・大和田主催の「秋の音楽祭」。美しい歌声のハーモニーがカフェに響き渡りました。このほかにも、JAZZピアノコンサートなどの音楽イベントや、チョークアート、タイルクラフト、ポーセラーツなどのワークショップも開催。貸切などもご相談ください。



月1度、子ども食堂開催中。中学生までの子どもとその保護者が参加できます。

スペース貸し出し

アリーナなどの利用も増えています!



地域のみなさんに、アリーナやスタジオの貸し出しを行なっています。キッズダンスや卓球、ヨガ、体操教室など、現在は11団体が定期的に利用中です。団体によっては、ほりさきマルシェのステージでも練習の成果を発表。「これまで発表の場がなかったけれど、発表の場ができてうれしい」という声も。

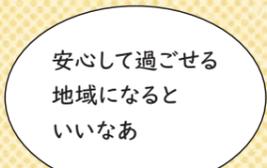


フードパントリー

必要な世帯に食料の配布を!



さいたま市内の企業(浦和北ロータリークラブ参加企業)から、毎月お米を120キロ、そのほかにも埼玉県少子政策課、埼玉県社会福祉協議会、日本証券業協会の子どもサポート証券ネットなどから食料品を提供いただき、必要な世帯に配布しています。



オンライン 地域についてみんなで考えよう!

コモンズの可能性 地域のチカラ、コモンズの可能性って何だろう?



貧困と格差が拡大し、人口が減少し続ける日本社会。これからの教育の役割は? 学校の役割は? そして、国の役割、社会の役割、地域の役割はどんなものになっていくのでしょうか? さいたまユースサポートネット代表の青砥恭が、子どもや若者、地域や教育などの専門家をお呼びして、さまざまな視点から「コモンズの可能性」について考えるシリーズです。

第1回 ダイジェスト お互いに支え合える地域で育つことが、子どもたちの自立につながる

第1回は、NHK Eテレ『すくすく子育て』などにもご出演されている、保育学・教育学の専門家である汐見稔幸さん。ダイジェストをご紹介します。

「最初に考えたいのは、自立についてです。一般的には、親や地域によっていいに育てられ、やがて自分の力で生きていこうになることを“自立”と言います。そのためには、悩みを語り合える場所、居場所づくり、学習支援、就労支援などがとても大事です。以前は、そのために地域が重要な役割を果たしてきたのですが、今、そのような役割を果たせなくなってきた地域が増えています。

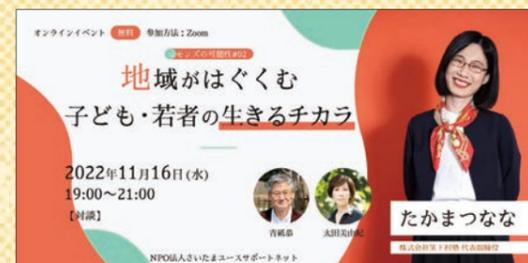
さて、本当の意味での“自立”とはどんなことを指すのでしょうか。医師であり、東京大学先端科学技術研究センターの熊谷晋一郎さんは、『自立とは依存先を増やすこと』と言います。私たちは誰も、一人では生きていけません。安心して生きていくためには、いろんな人にいろんな形で上手に依存するしかありません。たくさんの人に依存し、サポートする人も喜び

を得られる関係を上手に作っていく必要があります。誰もが互いに支え合える地域で育つことこそ、子どもたちの自立につながるのです。

近代社会は無縁社会になり、多義性をなくしてしまいました。効率的ですが、窮屈になりました。本来、全ての人は存在しているだけで価値があります。そこにいて誰かがうれしくなり、誰かの役に立っています。そのような関係の中で、安心して楽しく過ごせる地域づくりが必要です。コモンズをつくる活動は、そのような地域を作る活動です。地域の大人が夢を持ち、こんな社会を作ろう、こんな地域を作ろうといきいきと活動していれば、子どもや若者も元気になり、その地域が好きになっていくはず」

汐見稔幸(しおみ・としゆき)
1947年、大阪府生れ。専門は教育学、教育人間学、保育学、育児学。東京大学名誉教授、白梅学園大学名誉学長。ぐうたら村村長。保育についての自由な経験交流と学びの場である臨床育児・保育研究会を主催。同会発行の保育者による交流雑誌『エデュカール』の責任編集者や、エコビレッジ「ぐうたら村」の運営など、保育・教育関係者が学び合える公共の場づくりに力を入れている。

第2回以降も順次公開予定!



第2回は「私たちだって社会を変えられる」というメッセージをYouTubeやSNS、講演などで伝え続けているたかまつなさん。イギリス、ドイツ、スウェーデン、ウクライナなど、世界各国の子ども・若者たちへの取材から感じたこと、そして「地域」の可能性をうかがいました。第3回以降も企画中です。

「コモンズの可能性」はこちらからYouTubeでご覧いただけます



さいたまユース サポートネット 利用者の声

一人ひとりの小さな声に
耳を傾け、寄り添って
共に歩み続ける

さいたまユースサポートネットを利用した子どもや若者たちの背景はどのようなものなのでしょうか。また、利用したことでどんな変化があったのでしょうか。現場のスタッフから見た子どもや若者たちの様子、実際の子どもや若者たち、家族の声を集めました。

外に出る
きっかけがほしい

精神疾患のある
親がいる

誰かと関わりたい

同年代の
集団活動が
苦手

子育てが楽しいと
思えない
(保護者)



両親の仲が悪いので
自宅以外の居場所が
ほしい

ネグレクトのため
自分で家事をしている

DV・離婚が
原因で
不登校

幼い時に家族を亡くし、生活保護を受けて一人で生活していましたが、畑での農作業に参加し、それからグループホームに入り、毎日の食事などが保証され、日々の生活を安心して送ることができるようになりました。

中学でいじめにあったことから、不登校になり、昼夜逆転の生活をしていました。毎日、居場所に出かけることで生活リズムが整い、高卒認定試験を受けて合格できました。

人込みの中ではパニックになってしまい、一人で家から出ることができませんでした。居場所のスタッフが自宅へ迎えに行き、一緒に電車に乗る練習を何度もしました。今では、電車や自転車で外出できるようになり、アルバイトを始めています。



頼れる人が
増えた

違う年齢の友達が多く
参加しやすい

少しずつ
自分を表現
できるよう
になった

居場所ができた



表情が
明るくなった



同じ趣味を持つ
友達ができ

のびのびと
過ごせる場所



子どもの育てにくさについて
相談できる場所ができた
(保護者)

先輩にインタビュー!

事情をわかってくれる人がいる安心感と いつでも相談できる雰囲気が 僕の大きな支えになりました



うちだ けい
内田 恵 さん

宇都宮大学大学院在学中(2023年3月現在)

小学校4年生の1年間、僕は学校に通っていませんでした。父親から母親へのDVがあり、母と二人で母の実家に夜の間に逃げました。その後も、実家からDVシェルターに入り、1年後ようやくさいたま市内の小学校に転校することができたんです。そこからはずっと母と僕との二人暮らしでした。

母は精神障害があり、働くことができなかったため、生活保護を受けて暮らしていました。学校での勉強についていけないわけではなかったけど、同級生のほとんどが塾に通う中、僕は塾には通えません。

中学3年生の夏、受験が心配になった頃に、さいたま市から生活保護世帯に無料の学習支援教室があるというお知らせをいただき、岩槻区の学習支援教室に通い始めました。

生活保護世帯でも無料で学習ができる 学習支援教室は大切な居場所だった

学習支援教室はいつも楽しい雰囲気でした。勉強している子もいればおしゃべりにきてる子もいました。僕は、そこが塾だと思っていたのと、ちゃんと受験をしたかったので、真面目に勉強しましたね。マンツーマンで大学生のボランティアスタッフがしてくれるんですけど、中学生の僕からすればちょっと年上のお兄さん。話もしやすいし、楽しく勉強できました。

私立には通えないので、受験は県立高校1本です。確実に受かるようにということと、理科の実験が大好きだったので、農業系の高校を受験して合格しました。ただ、高校に入っても母の体調は変わらず、生活も変わりませんでした。高校では農業クラブに所属して、学校も交友関係も楽しかった一方で、母親をなんとなく重荷のように感じていました。

「周りの友達はそのようなことしてないのに自分で晩ご飯作って、弁当も用意して——。これが普通の家だったら。どうしてこんな家なんだろう」って何度も考えたし、反抗して母と話をしないこともありました。今思えば、

小さい悩みなのですが(笑)。

そんな時も、学習支援教室に行って友達やスタッフとおしゃべりするのはとても楽しかったですね。僕にとっては学習支援教室が大切な居場所でした。生活保護を受けていることも、家庭の状況も友だちには話せない。でも、さいたまユースには、そういう事情を全てわかってくれる人がいて、いつでも相談しやすい空気がある。それは本当に大きな安心につながりました。

生きづらさを抱える子どもたち その未来をサポートし続けてほしい

高校の途中から、大学でミジンコの研究をしたいと思うようになりました。成績は良かったので推薦も受けられる状況でしたが、学費は払えないので奨学金を使うしかないと考えていました。奨学金の書類も自分で用意しなければならなかったのですが、スタッフがサポートしてくれてとても助かりました。

大学入学後は、僕自身もボランティアスタッフとなり、高校まで通い続けた学習支援教室に宇都宮から週2回通っていました。子どもたちの中には、抑圧的な環境が家にある子も多いのですが、学習支援教室は、のびのびと過ごせて、自分のままでいられる場所です。僕は、勉強を教えるのは得意ではありませんでしたが、バックグラウンドが近いからこそ気持ちわかります。その頃から、自分の経験を活かして社会貢献をしたいと思うようになり、これまでに行政の研修会や支援団体の講演会などで自分の経験について何度かお話しさせていただいたこともあります。

生きづらさを抱える子どもたちに罪はありません。さいたまユースの学習支援教室は、子どもたちが安心して過ごせる居場所です。友達や信頼できる大人と出会い、心配ごとや悩みごと相談しながら、学ぶことができる場所です。これからもぜひ、子どもたちの未来のために変わらずサポートしてほしいと願います。皆さんもぜひ応援してください。

さいたまユース サポートネット 活動実績

人と人のつながりを大切に
さいたまユースの活動は
着実に広がっています

さいたま市内10区で学習支援を実施!



当初は有志で場所を借りてスタートした学習支援。現在はさいたま市の委託事業として、さいたま市内10区すべてで実施するようになりました。2012年は5つだった学習支援教室は、2022年にはさいたま市・川越市を合わせて25教室に。対象も中・高校生だけでなく、小学生にも広がっています。

スタッフ、ボランティアも増えています!



スタート当初は全てボランティアで活動していましたが、今では51人のスタッフ(2022年度現在)に加え、ボランティアは年間350人以上。スタッフの多くは、専門的な知識や経験を持ち合わせています。臨床心理士(公認心理師)、社会福祉士、精神保健福祉士、キャリアコンサルタント、教員(通常級・特別支援学級・小中高大)、保育士に加え、英語、韓国語、中国語が堪能なスタッフも。

さいたまユースサポートネットのすべての活動は、人と人とのリアルなつながりや関係性を大切にしながら、子どもや若者たちを支えていることが大きな特徴です。地域の人たちにあたかく見守られながら、地域で育ち、地域で遊び、地域で学び、地域で働く——。地域の人たちもまた、大学生から高齢者まで幅広い年代の人たちもボランティアとしていきいきと参加し、子どもや若者たちから力ももらっています。このような、地域に根ざした活動がしっかりと根を張り、年々広がってきました。

サポートしている子ども・若者の人数は?



学習支援教室のほかにも、居場所づくりや就労支援などさまざまな活動を行なっています。すべての事業を合わせると、年間1500人以上の子ども・若者をサポートしていることとなります(2022年度現在)。

年間の就労支援相談実績は?



第1回・第2回「働く力応援基金」(公益財団法人パブリックリソース財団)の助成団体に採択された就労支援では、2021年度から2022年度9月末までに454件の若者の相談に応じています。2021年度は、のべ277人の個別相談のほか、45回のプログラムを実施し、地域の職業人講話や少人数制の就労プログラム、さまざまな体験活動を通して、伴走型で就労につなげてきました。

さいたま市、上尾市、埼玉県、厚生労働省、文部科学省などの委託・助成事業も多数!

さいたま市や近隣自治体からの委託事業(P4~P5参照)だけでなく、厚生労働省の助成事業、調査研究事業などにも積極的に取り組んできました。

■ 2022年度の助成事業実績

- ・休眠預金活用事業 「困窮世帯の子ども若者の社会体験活動事業『ほりたま』」
- ・第1回東京海上日動キャリアサービス「働く力応援基金」(公益財団法人パブリックリソース財団)(2021年度~)
- ・令和4年度 社会福祉振興助成事業 WAM(独立行政法人福祉医療機構)助成

SDGs ジャパンスカラシップ岩佐賞 受賞



公益財団法人岩佐教育文化財団が設立した「SDGs ジャパンスカラシップ岩佐賞」の第1回受賞者が2022年10月22日、発表されました。医療、教育、福祉、環境、平和、芸術、農業の部に特別枠を加えた全8部門への応募総数は1325件。その中の教育の部で、さいたまユースサポートネットの「たまり場(若者の学びなおし・居場所づくり)」が受賞いたしました。

「たまり場」がスタートしたのは2011年。それ以来、「たまり場」には年間のべ2000人ほどの若者たちがやってきました。その多くは就労などにもつながり、自立に向けて巣立っていきました。

このたびは、名誉ある賞をいただき、誠にありがとうございます。2011年、さいたま市内の6畳一間のアパートを拠点に、孤立の中で暮らす貧困層の若者の学び直しや居場所づくりから始めて12年。今後も地域との協働を大切に、活動を続けていきたいと思っております。賞金は、活動を継続するために使わせていただきます。

代表 青砥 恭



初めてのクラウドファンディング目標達成!

さいたまユースサポートネットの活動の原点でもある「たまり場」は、団体設立から10数年、運営を続けてきました。寄付中心の自主財源で大変厳しい状況です。これからも支援を続けていくために、運営資金調達も多様な形が必要と判断し、クラウドファンディングに挑戦しました。

貧困が根底にある課題を抱えた若者たち。「たまり場」の参加費は無料です。私たちは、お金がネックになり参加できなくなる若者を出したくありません。無料だからこそ、届く支

援があります。無料だからこそ、家庭環境に関わらず、居場所がない若者たちが気楽に参加することができます。年齢層は、15歳~39歳位の広い層です。

今回のクラウドファンディングでは「たまり場」の1年間の運営に必要な最小限の活動資金300万円を募ったところ、230人の方から4,166,000円のご寄付をいただき、目標金額だけでなくネクストゴールも達成することができました。毎年、継続するための資金集めに苦労しています。この活動を継続できるよう、来年も引き続き多くの方からのご支援をお願いします。



さいたまユースサポートネットとして初めてクラウドファンディングに挑戦しました。多くの方々のご支援のおかげで、ネクストゴールも達成することができました。たくさんお寄せいただいたメッセージは、私たちの団体にとっての貴重な宝物です。皆さまのお気持ちを糧に、今後もこの活動を継続していきます。今後とも、ご支援いただきますようお願い致します。

専務理事 青砥祥子

<みなさまからいただいた応援メッセージ>

- 私も日々、微力ながら子どもたちのためにできることをしています。見沼区に移転して下さったときに本当にありがたいことだなと感じました。微力ですが、お力になれば幸いです。
- 素晴らしい活動だと思います。応援しています!
- 子どもたちの未来が明るいものになりますように!
- 活動に敬意を表します。いつまでも居場所を継続してください! 応援しています。
- 困難に遭っている子どもたちが一人でも多く救われますように! 心から応援しています。
- トップランナーとしてこれからも導いてください!
- ユースの原点である「たまり場」と若者たち、そしてユーススタッフのみなさんを、これからもずっと応援しています。
- ゴール達成おめでとうございます。ネクストゴール達成に向け、わずかではありますがご支援させていただきます。子どもたちのために今後も素敵な活動を継続していきましょう!

あなたのご支援でできることが たくさんあります

さいたまユースサポートネットは、
将来の夢を描けずに苦しむ
多くの子ども・若者たちの応援をしてきました。
子どもや若者の不安や孤独感を解消するためには、
「地域の中に自分を認め、
受け止めてくれる居場所がある」という
安心感が何よりも必要です。
そのために、地域社会が協働するモデル
「 commons 」を
さらに広げていきたいと考えています。
私たちの活動はまだまだ発展途上にあります。
ぜひ、みなさまのお力をお貸しください。

1 参加する

カフェの利用、マルシェや
イベントなどに参加

2 ボランティア

単発でも定期的でも。
得意なことを生かして

3 就労先紹介

アルバイト・正社員——。
若者たちに仕事を

4 寄付する

マンスリーサポーター、
スポットサポーター、物品による
ご寄付、遺贈によるご寄付も



いろいろなカタチの
支援があるんだね！
寄付の金額によって、
こんなことができるよ！

月 **1,000円** で

- ・食事を子ども3人に1日提供できます。
- ・子どもに勉強を教えることができます。

月 **3,000円** で

- ・食事を子ども3人に3日間提供できます。
- ・子ども一人に体操着・上ばきなどを提供できます。

月 **5,000円** で

- ・食事を子ども3人に5日間提供できます。
- ・絵具、書道セットなどを提供できます。

寄付の方法

詳細はこちらから



マンスリーサポーター

月額（5段階の料金）でのご寄付。お支払いはクレジットカードによる自動引き落としで対応しています。

スポットサポーター

クレジット払い・銀行振込・郵便振替・現金書留にて、ご都合のよいタイミングでできる任意の金額のご寄付です。

物品によるご寄付

郵送（元払いのみ）か持ち込みでのご寄付です。長期保存できる米や食料、不要になったテレフォンカード等をお送りください。

遺贈によるご寄付

遺言から所有されている財産の一部のご寄付も可能です。困窮する子どもたちのためにご寄付いただける方もお待ちしております。

振込先 クレジットカード決済以外の場合は下記までお願いします。

銀行振込	
金融機関名	埼玉りそな銀行 与野支店
種類・番号	普通預金・4551248
口座カナ名	トクヒ) サイタマユースサポートネット
口座名義	特非) さいたまユースサポートネット

郵便振替	
記号・番号	00110-1-504848
口座名	特定非営利活動法人 さいたまユースサポートネット

現金書留	
	〒337-0052 埼玉県さいたま市見沼区 堀崎町12-39
口座名	NPO法人 さいたまユースサポートネット

ご支援いただいた企業・団体（順不同）

浦和北ロータリークラブ



私たち浦和北ロータリークラブが、さいたまユースサポートネットとお付き合いを始めたのは10年ぐらい前になります。見沼田んぼの荒地化対策として農園を運営していた見沼福祉農園の事業で、土地の耕し・植え付け・収穫をおこない、共に汗を流しました。それをきっかけに、さいたまユースが主催している若者自立支援事業に参画、定時制高校の職業相談や職場体験等、数年に渡り協働の関係を続けてまいりました。その後、見沼区堀崎町に移転してからの活動では、出会いの場であるコモンスカフェの運営、マルシェの開催、演奏会やイベントを通じて、地域の交流にも力を入れてきました。また子どもたちの居場所づくり、若者支援事業、生活困窮者等の自立支援や学習支援、最近では子ども食堂も開催し、行政の手の届かない、子どもたちの居場所づくりや誰もが『ここにいていいんだ』と参加者の1人ひとりが対等な立場で活動できている、コミュニティーづくりなど地域で家庭環境の問題や貧困の格差により若者が孤立しないように『たまり場』と言う居場所を作ることも進めています。ロータリークラブは地域社会貢献や青少年育成に力を入れている団体で、まさにさいたまユースが行っている行動とも共通しています。浦和北ロータリークラブは、今後もさいたまユースの活動に対し積極的に参加し、引き続き応援していきたいと考えています。

ジョーンズ ラング ラサール 株式会社

総務部長
中山 幹朗 様

非営利団体の活動を支援する FIT チャリティランを通じて、長年教育に携わり、困難を抱える子どもたちを温かい目で見守る青砥先生やスタッフの方々と出会い、その献身的な取り組みに感銘を受けました。弊社では、青砥先生による日本の子どもの貧困に関するオンラインセミナーを始め、弊社での就労体験も実施させて頂きましたが、今後も子どもたちにとってよりよい環境、社会を作る為に継続的に活動をご一緒して参りたいと思います。

浦和レッドダイヤモンドズ



「サッカーをはじめとするスポーツの感動や喜びを伝え、スポーツが日常にある文化を育み、次世代に向けて豊かな地域・社会を創っていきます」という浦和レッズの宣言のもと、スポーツを通じて地域が幸せになるような取り組みを、プロサッカーチームとしての活動だけでなく、続けています。放課後に子どもたちが安心して過ごせる居場所として、さいたまユースサポートネットが運営する「子ども第三の居場所」を通じて、一人でも多くの子どもたちが夢を持ち、夢に向かって頑張ることができるよう、2021年から連携させていただき、サッカーを中心に子どもたちが元気に過ごし、そして生き抜いていく力を持てるようサポートしてまいります。「第三の居場所」にかぎらず、さいたまユースサポートネットの活動の輪が広がりますことを願っております。

大宮アルディージャ



「子ども第三の居場所・あそぼくすほりさき」の開所の際に、施設を利用する子どもたちとサッカー教室をさせていただきました。僕らもコロナ禍で中々地域の子どもたちと接することができない中、久しぶりに一緒にサッカーを楽しめて、自分たち自身も楽しかった思い出があります。僕らにできることは、サッカーのプレーで頑張って、みなさんに笑顔を届けることが、まず第一だと思います。そして、できる限り地域のイベントなどに参加して、みなさんと一緒に地域を盛り上げたいと思います。そういった活動の中で、さいたまユースサポートネットさんに関わる子どもたちにも触れ合っ、よい影響を提供できるなら、私たちが嬉しいです。ユースサポートネットさんの施設で、勉強を楽しんで美味しいものを食べて元気に、未来に夢を持って、毎日を過ごしてもらえたらと思います。



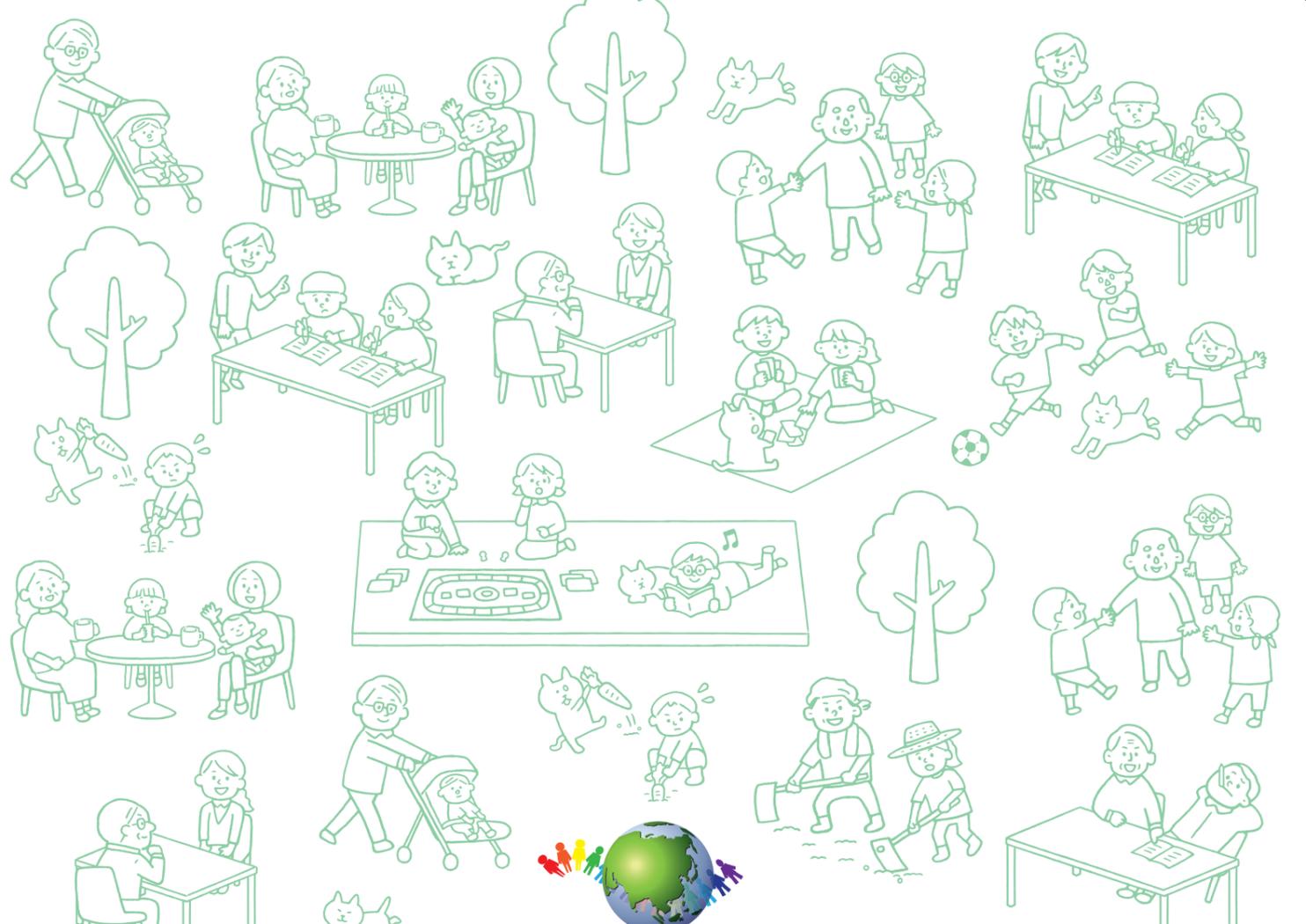
小島 幹敏 選手
(さいたま市出身)



Supported by **READYFOR** READYFORの基金事業のサポートを受けて活動しています



この冊子は JANPIA（一般社団法人 日本民間公益活動連携機構）の休眠預金活用事業を活用して作成しました。



<https://saitamayouthnet.org>



Instagram



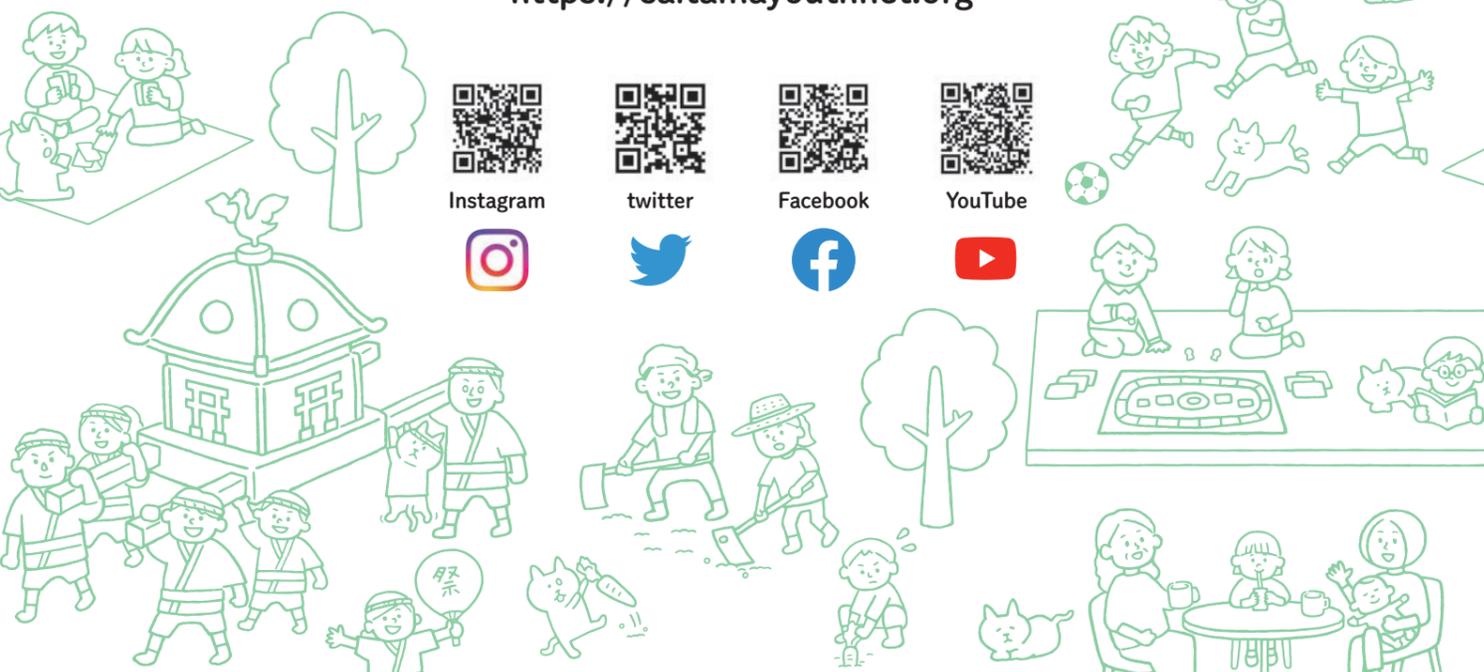
twitter



Facebook



YouTube



NPO法人

さいたまユースサポートネット

〒337-0052 さいたま市見沼区堀崎町12-39

TEL 048 - 829 - 7561 (代表)

saitama.yn@gmail.com

